

# ウィザス

「ウィザス」はウィズアス = with us "共に生きる—男女共生社会"の理念を表しています。

## 特集 コロナ禍で見えてきた女性の今とこれから

### 寄稿 ポスト・コロナ社会を考える

～ 多様性に関わった  
「ゆっくり社会」を求めて～

京都産業大学現代社会学部 教授  
伊藤 公雄 さん

本誌の別の欄でもふれられているように、今回のコロナ対応では、各国のトップのジェンダーの差が際立って大きな意味をもったようだ。簡単にいえば女性がトップの国や地域（ニュージーランド、フィンランド、エストニア、アイスランドや台湾、これにドイツを加えてもいいかもしれない）では、感染を比較的早くおさえ、また、死者の割合も低かった。逆に、トランプ大統領のアメリカ合衆国やボリソナロ大統領のブラジルなど「マッチョ」で「強引な」トップの国では、感染の広がりが止められず死者も膨大な数に登った。この二人の大統領が「コロナなんか怖くない」とばかり、当初はマスクの着用を拒否したのも「いかにも」という感じだった。

なぜ女性リーダーが比較的うまく対応し、男性リーダーが失敗したのか。いろいろな理由があるだろうが、ひとつの理由に「ケアの視点」の問題があるだろうと思う。つまり、男性（リーダー）の多くには、ケアの精神が欠如しがちだということだ。ここでいうケアの精神とは、他者（さらに自分自身も含む）の生命や身体、さらに生活領域をめぐる「配慮」の力のことだ。

ヨーロッパにおける男性・男児のジェンダー政策は、ここ10年ほど「Caring Masculinity（ケアする男性性）」を重要視している。男性は、もっと育児や介護などケアの仕事を担当すべきだ、という提案だ。今回の新型コロナが明らかにしたことの一つには、まさにEUが提案しているような男性のケアの力・男性にとってのケアの視点という課題があったのは明らかなことのように思う。

日本の社会をみても、男性リーダーたちが「ケアの視点」を十分発揮しているとはいえない事態が続いた。しかし、不思議なことに死者数は比較的少なく、感染者数も主要諸国のなかでは低く抑えられた方だ（アジア地域でみると、感染者も死者数もどち

らかという高い方なのだが）。

「中央から指示を出し、現場が従う」的な行政の仕組みも欠陥が明らかになった。複雑化した時代だからこそ、中央管理型ではなく、現場を信頼した分権型で地域の多様性に関わったフレキシブルな行政が必要だということも見えてきたと思う。

新型コロナの感染者拡大のなかで、日本社会がデジタル化という面において、お隣の韓国や台湾と比べても、かなり出遅れていたことも明らかになった。他方で、これまで進んでいなかった「リモートワーク」も、「やってみればやる」ことも見えてきた。

リモートワークのなかで見えてきたことのひとつは、「日本の男性たちって、なんでこんなにしんどい働き方をしてきたんだろう」ということだったと思う。満員の通勤電車、いろいろな人との仕事上の面談、夜の接待等々で「24時間闘う」ことを求められてきたせわしない男性の生活が、リモートワークで一変した。「家族という時間が増えたことでDVなどが増加するのでは」という心配もあったが、思わぬ家族との触れ合いの時間をもって、家族の存在を見つめ直した男性も多いはずだ。長時間労働で妻子とのコミュニケーションもままならなかった人が多い日本の男性の中には、家族という存在と向き合う時間になったのではと思う（というか、これまでの日本社会が「家族を大切にしない」仕組みだったのだ。ヨーロッパの男性たちなら「家族と過ごす時間がないような働き方はしたくない」が普通だと思う）。

コロナ時代を経験した日本社会は、複雑化する社会に対応した「多様性に関わった社会」の仕組みを目指すとともに、相互のケアの精神をもった、もっと「ゆっくり」暮らす選択に向かって、社会を設計し直す作業を始めてもいいのではないだろうか。

### Profile

京都大学文学部・同大学院博士課程で社会学専攻。その後、ミラノ大学政治学部留学。京都大学院文学研究科・文学部教授を経て、現在、京都産業大学現代社会学部客員教授・ダイバーシティ推進室長、京都大学・大阪大学名誉教授、国立女性教育会館監事などをつとめる。著書に『女性学・男性学第3版』などがある。



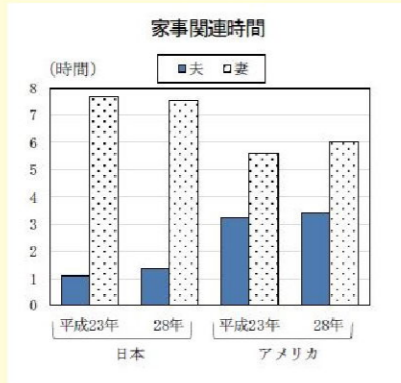
# 特集 コロナ禍で見えてきた女性の今とこれから

新型コロナウイルス感染症の拡大により社会全体が混乱する中で、再認識された問題に「男女格差」があるのではないのでしょうか。一斉休校や外出自粛により増えた女性の家事・育児負担、男性との賃金や雇用形態の格差による貧困問題など、コロナ禍で明らかになった女性を取り巻く問題について考えました。



## 女性を取り巻く問題 1 家事・育児負担の増大

日本では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような固定的な性別役割分担意識が未だ根強く残っており、以前から女性の家事・育児の負担が問題視されていました。海外と比較しても、夫と妻の家事関連時間には大きな差が見られます（下図「家事関連時間」参照）。さらにコロナ自粛の中、子どもの休校措置や家族の在宅勤務のために、家事・育児が増え、より大きな負担となりました。



【右図 出所】平成28年社会生活基本調査—生活時間に関する結果—（総務省 統計局）

ドイツでは、労働組合連合総同盟のハンス・ベックラー財団が公表した調査結果により、コロナ禍における女性の家事・育児負担の増加がデータにより裏付けられています。育児のために父母のどちらが勤務時間を減らすかを決める際、比較的給与の高い男性がこれまで通り仕事を続ける傾向になっています。14歳未満の子どもが1人以上いる家庭で、育児のために勤務時間を減らしたのは男性16%に対して女性27%でした。最新のジェンダーギャップ指数が153か国中10位、G7中1位のドイツにおいても、コロナ禍においては伝統的な男女の役割分担に回帰したことが分かります。

日本においては、経済的な事情だけでなく、固定的な性別役割分担意識や「無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）」※下記参照が強く影響し、女性に多くの負担がかかっています。このコロナ禍において、女性も時間的・精神的に余裕のない中、いくつもの事をこなすのは限界があります。無意識の思い込みで、家庭内でのジェンダーギャップを広げないようにしたいものです。

※「無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）」自分自身では気づいていない「ものの見方や捉え方の歪みや偏り」のことを言い、過去の経験や知識、価値観等によって形成される。

## 女性を取り巻く問題 2 深刻化する女性の貧困

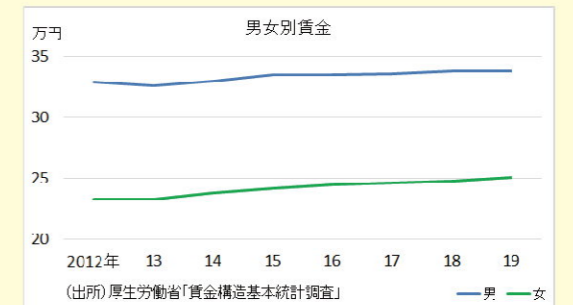
新型コロナウイルス感染症の拡大は、女性の収入、特に母子家庭に大きな影響をもたらしました。NPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」の調査によると、勤務先の休廃業や労働時間の短縮で、元々少ない収入がさらに減少してしまい、母子家庭の18.2%が食事回数を減らし、14.8%が1回の食事を減らしていることが分かりました。

近年女性活躍推進が政策に掲げられ、出産や育児で女性が仕事を辞めることが原因で30代の就業率が下がる「M字カーブ」は解消する傾向にあります。しかしパートやアルバイトといった非正規雇用の割合は、男性の21.9%と比較し、女性は55.5%と高くなっています（内閣府「平成30年度男女共同参画白書」参照）。また非正規雇用の女性の中には、コロナ禍で真っ先に解雇や雇止めめに追い込まれるケースや、子どもの学校の休校措置による家事や育児の負担から働けなくなったケースも多発しました。総務省の「労働

力調査」によると、パートやアルバイトなど非正規雇用者は、昨年の同月に対して4月に97万人、5月は61万人減少し、減少した非正規雇用者の7割は女性が占めているとのことです。

またフルタイム労働者でも2019年度は、女性は男性の74%の給与で、男女間の賃金格差は依然としてあります（下図「男女別賃金」参照）。まだまだ女性の収入は少なく、社会の影響を大きく受ける現状は変わっていません。

こうした問題をすぐに解決するのは難しいことですが、政策決定の場における女性の割合が増加していくことで、少しずつ変わっていくと考えられます。女性も男性と同様に政治の場で活躍し、多様な人々が暮らしやすい社会を目指していく必要があります。



## 女性を取り巻く状況 — 諸外国の状況 — コロナ禍における女性政治リーダー

日本では上記のように、コロナ禍で様々な女性を取り巻く問題が明らかになりました。

一方海外に目を向けると、女性がトップの国や地域の新型コロナウイルス感染症対策に注目が集まりました。

メルケル首相のドイツ、アーダーン首相のニュージーランド、そして蔡英文総統の台湾です。

ドイツは3月、グリッター文化大臣を中心に、コロナ禍による影響を受けている文化施設と芸術家の支援を決定しました。彼女は「アーティストは必要不

可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ」と言い、零細企業・自営業者向けの緊急支援500億ユーロ（約6兆円）を芸術・文化領域にも適用しました。



ニュージーランドのアーダーン首相は、新型コロナウイルス感染症による死者が出ていない3月末に完全ロックダウンを指示しました。ほぼ1ヶ月のロックダウンの間、アーダーン首相による動画配信がありました。ライブ配信は首相オフィス、移動中の車内、自宅のリビングなどから行われ、国民の疑問や不安などに答えています。また大人だけでなく、子どもたちにも語りかけるなどして、全世代に寄り添いました。

新型コロナウイルス感染症対策が、世界中で最も注目されたのは台湾でしょう。初動の早さが台湾の新型コロナウイルス感染症対策の成功の一因といわれています。蔡英文総統は、今年1月11日の選挙で再選しました。その直後の21日に台湾で初めての感染者が見つかりましたが、すでに選挙前に中央感染症指揮センターを設立していました。



また効率の良いマスク供給システムをわずか3日で開発・実施しました。これにはオードリー・タンIT大臣が貢献しています。彼女の学歴は中学中退で、トランスジェンダーであることを公表しています。

これら海外の女性トップの事例から分かることは、新型コロナウイルス感染症対策においても、多様性を尊重し、国民に寄り添うことができるリーダーの存在と、透明性のある政治を行う政治家を選ぶことのできる政治システムがより重要であるということです。

### 最後に…

日本におけるコロナ禍で顕著になった女性に関するさまざまな問題は、諸外国と比較して、政策決定の場に女性が少ないことが一因としてあるのではないのでしょうか。多様性を尊重し、性別に関わりなく個人が能力を発揮できる社会・環境が、コロナ禍においてのみならず、社会に起こり得るさまざまな問題に対応できるエネルギーになるのです。

## 情報コーナー 新着図書

男女共同参画センター1階の「情報コーナー」に新しく追加された書籍の一部をご紹介します

- ★ 上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！（大和書房）  
【著】上野 千鶴子・田房 永子
  - ★ 持続可能な魂の利用（中央公論新社）  
【著】松田 青子
  - ★ クソ女の美学（ワニブックス）  
【著】ミン・ソヨン【訳】岡崎 暢子
  - ★ 「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる「繊細さん」の本（飛鳥新社）  
【著】武田 友紀
  - ★ 被災ママに学ぶ ちいさな防災のアイデア40（学研プラス）  
【著】アベ ナオミ
  - ★ サンタちゃん（講談社）  
【作】ひこ・田中【絵】こはら かずの
  - ★ あつかったらぬげばいい（白泉社）  
【作・絵】ヨシタケ シンスケ
- 貸出しも2週間で2冊行っています！  
ぜひご利用ください😊

## お知らせ 男女共同参画センター講座・事業

男女共同参画センターでは様々な講座や事業を実施しています！  
詳細は芦屋市広報もしくはホームページ等をご確認ください★

### ♣ 育メンスイッチセミナー 「パパの家事・育児が家族を救う?！」

12月10日（木）午前10時～11時30分（ママ向け）

子どもの成長と夫婦のパートナーシップ

～パパに育児・家事に関わってもらう方法とは～

12月19日（土）午後2時から3時30分（パパ向け）

パパと家族が幸せになる育児・家事

～育児・家事に関わる楽しさとメリットを学ぶ～



### ♣ 女性のための起業講座 「創業をめざすあなたに！」

12月17日（木）午前10時～正午

創業計画書の作り方、創業にあたっての基礎知識等

芦屋市男女共同参画センター  
講座ページに入ります



## 編集後記

中学生の息子が風邪を引いた。体温は36.9度、喉が痛いという。学校に症状を伝えて欠席。夫は会社を休んだほうがいいのかな？私は友人に会うのはキャンセル。結局、2日で全快した息子は学校へ行き、夫も休まず出社した（マスクは着用してます）。もし息子がコロナだったら、わが家の対応は×だった？今回強く思ったのは、間違った対応をして世間から非難されるのが怖いということ。ビクビク暮らすのは嫌だなあ。（浜橋）

秘密厳守

## 女性相談

面接相談

無料相談・予約専用電話 0797-38-2022【要予約】

### 心の悩み相談 (1人50分)

12月4日・11日・25日  
1月8日・22日・29日  
2月5日・12日・26日

いずれも金曜日  
午前10時～午後4時

### 家事相談 (1人50分)

12月18日（金）  
1月15日（金）  
2月19日（金）

いずれも  
午前11時～午後4時

### 法律相談 (1人30分)

12月2日（水）  
1月9日（土）  
2月3日（水）

いずれも  
午後2時～4時

### 女性活躍相談 (1人50分)

12月8日・15日・22日  
1月12日・19日・26日  
2月9日・16日

いずれも火曜日  
午後1時～4時（別日も可）

★ 一時保育あり・無料（事前予約必要）

★ 相談日は現時点での予定です（随時変更あり）

## ウィザス

No. 103

令和2年12月発行（冬号）

企画・執筆

市民編集ボランティア

編集・発行

芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

芦屋市男女共同  
参画センターHP

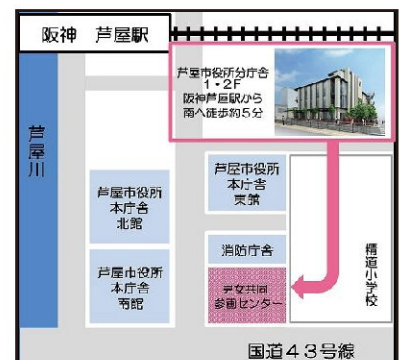
〒659-0064 芦屋市精道町8番20号（市役所分庁舎1・2階）

TEL：0797-38-2023 / FAX：0797-38-2175

Eメール：josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開館：月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分

■休館：日曜日・祝日・年末年始（12月28日～1月4日）



配偶者やパートナーからの暴力に悩んでいるかたへ ひとりで悩まず、お電話ください。<<秘密厳守>>

芦屋市DV相談室 TEL：0797-38-9100 月～金（祝日、年末年始を除く）9：00～17：30（12：00～12：45を除く）